

僕が原発に反対する理由

STEPえどがわ 今村 登



だって、
原発は『差別の象徴』だから

障害者差別禁止法を求めるからこそ、反原発

- いくらより頑丈で安全な原発を造ろうとも、たとえ事故が起きなくとも、原料であるウランの採掘から定期点検、廃棄物処理に至るまで、被ばく労働者抜きには成り立たないのが原発です。
- 高レベルの放射性廃棄物の安全な処理方法は、未だ世界中のどこの国も確立できておらず、未来の世代に押し付けるものです。
- 被ばく労働者を安定的に確保するためには、格差社会を維持する必要があります。
- 原発は安全だと言いつつ、過疎化が進む地域に建設します。
- 札幌で住民を分断し、コミュニティを破壊します。
- **そんなものを認めるということは、「差別を容認する」ということです。**
- たとえ経済成長ができて収入が増えたとしても、差別がはびこる社会に幸福度、安心感は得られないと思うのです。
- **そんな社会で障害者差別を禁止する法律などできっこないでしょう。たとえできたとしても、定着などしないでしょう。**
- また、障害者の差別はダメだけど、**他のことは無関心、行動もしない**というのでは、障害者を特別扱いにしてくれと言ってるのに等しいと思うのです。

絶対安全だと言われた原発は・・・ 日本一の防潮堤（スーパー堤防） だって・・・



克服するんじゃなく、ありのまま---自然、障害

- 日本一と言われたスーパー堤防でさえ、3.11の津波で破壊された。その他多くの建造物もことごとく破壊された。

我々はここから何を教訓とし、どちらに向かうのか？

「自然を克服する」という発想

もっと頑丈で高い堤防を作って、
自然の猛威を克服できる街づくり
をする！

(景観、環境破壊はお構いなし)

もっと頑丈な原発を造る！

(壊れることは想定しない、低線
量被ばくは無視、差別の継続)

障害はない方がいい。もっと訓練して
克服するもの。乗り越えるべき。それ
ができないのは自己責任。弱肉強食、
格差・差別容認の社会

「自然と共存する」という発想

時に自然は猛威を振るうことが
あるということが当たり前として、
工夫して受け入れる街づくり。

(自然の恵み、景観に感謝)

誰かの犠牲の上でしか成り立たない
原発、ひとたび事故を起こしたら取り
返しのつかない原発はやめて、多様
な自然エネルギーにシフトする。

障害も含め、ありのままでい
いじゃない！多様性を認め合
えるインクルーシブな社会

or

どちらが
生きやす
い社会？



原発はエネルギーの問題か？
障害者問題は福祉の問題か？

NO ! NO !

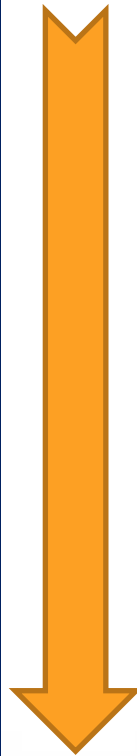
人権の問題
命の問題



誰の何のため？・・・問題の根っこは同じ

問題の根っこは同じ

- 戦争
- 原発
- T P P
- オスプレイ配備
- 米軍基地
- ダム
- リニアモーターカー
- 死刑制度/懲役刑
- 農薬・種（モンサント）
- etc...



- 障害者
- 在日
- 部落
- 水俣病
- 原爆症
- ハンセン病
- 薬害
- 拉致
- 生活保護バッシング
- 貧困
- 格差
- etc...

人権無視、無関心、マスコミ



「差別の象徴である原発をやめられない国に、障害者差別禁止法などできない。 障害者差別禁止法ができない国に原発はやめられない。」

何故なら

- 現在行われている障害者制度改革は、国連の条約を批准するに見合った国内法の整備であることは確かだが、条約や法案が目指しているものは単に障害者と言われる人たちだけの為ではなく、誰も排除しない、排除されないインクルーシブな社会の構築を目指したものだ。
- それは、3.11以降、お金より命が大切にされる社会へと「変わりたい」、「変わらなきゃ」と行動し始めた、多くの人が目指す社会と合致するだろう。
- そのためには、この国の政治・行政の在り方、そして国民の価値観を変える必要がある。

言い換えれば



- **脱原発は社会変革の象徴！**
- **障害者差別禁止法が制定できるかどうかは、この国が変われるかどうかの『試金石！』**



3.11を日本のターニングポイントに！



明日、死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい。幸せとは、あなたが考えることと、あなたが言うことと、あなたがすることの、調和が取れている状態である。... 重要なのは行為そのものであって、結果ではない。行為が実を結ぶかどうかは、自分ではどうなるものではなく、生きているうちにわかるとも限らない。だが、正しいと信じることを行いなさい。結果がどう出るにせよ、何もしなければ、何の結果もないのだ。（マハトマ・ガンディー）



ハチドリのひとつく ～いま、私にできること～

- 森が燃えていました
森の生きものたちは われ先にと 逃げて いました
でもクリキンディという名の
ハチドリだけは いったりきたり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます
動物たちがそれを見て
「そんなことをして いったい何になるんだ」
とって笑います
クリキンディはこう答えました



「私は、私にできることをしているだけ」

出典：「ハチドリのひとつく」 辻 信一監修 光文社刊 2005年

